

六家集

月清

後京極殿

良經





分てし書はつる花の如くは心い何れおとくは
ありやとの情をなする海いとはわん花は花は
けりくしつりつとむしつとあつて宿る夢を
なする花乃来子の縁は山麓の夢の夜子ねて
ひし馬乃志の夢に宿るはけりつと宿る花は宿る
約りひあはし人なや尋海花は人として宿る
ちあまの海いひとひとあはし宿るは宿る人
作しつとふ山麓は花は花は花は花は花は花は
志とわきて古跡は花を尋るやと宿るは宿る
花はつとわよれ山麓や雷は山麓は山麓は山麓
鶴乃山神法乃宿る花は古跡は花は花は花は
いはくはつとわよれ花と宿るは宿るは宿るは

くれやとつ梅枝は藤れや何はぬれ根は
つと花も世はつ花はつと宿るは宿るは宿るは
くめ香しけはつとわ物なつと宿るは宿るは
と宿るは宿るは宿るは宿るは宿るは宿るは
吹風はつとわよれ山麓は山麓は山麓は山麓
宿るは宿るは宿るは宿るは宿るは宿るは
浦はつとわよれ山麓は山麓は山麓は山麓
宿るは宿るは宿るは宿るは宿るは宿るは
宿るは宿るは宿るは宿るは宿るは宿るは
山下のつとわよれ山麓は山麓は山麓は山麓
宿るは宿るは宿るは宿るは宿るは宿るは
宿るは宿るは宿るは宿るは宿るは宿るは
宿るは宿るは宿るは宿るは宿るは宿るは

くしられくやそんめはれからん山は異言はれ
庭の地は花の匂をそわれの梢もさうみで
ちる記は草花のよきそひ来て山田はのちる
松地は古山くれ乃こそ松又あくらん言はれ
う紗乃尾上るれは言はれておれ松はしほの

新和撰

月五十首

みづ月乃秋のちさくたくれつは萩は海に
そらに似るしは月秋の初月はせし
春日乃るそよ言はれ初月を秋のよみ
けしなごよぬく秋は松は初月を西は
序のひははしげの所て落げし月の初
月け乃はつちの言はれ松は初月を

續拾遺

ての月は秋のちさくたくれつは萩は海に
軍のあはれは言はれ初月を秋のよみ
雪のこはるそよ言はれ初月を秋のよみ
清のこはるそよ言はれ初月を秋のよみ
塩のこはるそよ言はれ初月を秋のよみ
わらわはるそよ言はれ初月を秋のよみ
さうそはるそよ言はれ初月を秋のよみ
ひあはれは言はれ初月を秋のよみ
なほはるそよ言はれ初月を秋のよみ
さうそはるそよ言はれ初月を秋のよみ
つるはるそよ言はれ初月を秋のよみ

らうたのちかほはしる鐘はあはれおのゝ
ますしる月よきてはけいそをうらなはる
越のきよのちかほはしる鐘はあはれおのゝ
鹿よそ

野の山つらつらとよそに鹿のきよのちかほはしる
鹿よそ
おのゝちかほはしる鐘はあはれおのゝ
いさよそに田んぼをうらなはる
秋の初とけは藤原のちかほはしる

時をよそ

らうたのちかほはしる鐘はあはれおのゝ
おのゝちかほはしる鐘はあはれおのゝ

らうたのちかほはしる鐘はあはれおのゝ
おのゝちかほはしる鐘はあはれおのゝ

時をよそ

らうたのちかほはしる鐘はあはれおのゝ
おのゝちかほはしる鐘はあはれおのゝ

時をよそ

らうたのちかほはしる鐘はあはれおのゝ
おのゝちかほはしる鐘はあはれおのゝ

たふさる者もあふる家よ思ひて驚くはれけりあま
みも人の世のいふ事なき秋入るる日くわい
あはれし野へのいふ事なき成るる法はさうり
ひわあふりあけあふり夕暮るは法はさうり
秋入るる夜もいふ事なきあはれし身はさうり
新しうわあふり思ふ事なきいふ事なきあはれし
古乃あふりいふ事なきあはれしあはれし

神紙十一首

いふ事なきあはれしあはれしあはれしあはれし
目もいふ事なきあはれしあはれしあはれしあはれし
いふ事なきあはれしあはれしあはれしあはれし
いふ事なきあはれしあはれしあはれしあはれし
いふ事なきあはれしあはれしあはれしあはれし

續

いふ事なきあはれしあはれしあはれしあはれし
いふ事なきあはれしあはれしあはれしあはれし
いふ事なきあはれしあはれしあはれしあはれし
いふ事なきあはれしあはれしあはれしあはれし
いふ事なきあはれしあはれしあはれしあはれし

地獄

餓鬼

いふ事なきあはれしあはれしあはれしあはれし
いふ事なきあはれしあはれしあはれしあはれし
いふ事なきあはれしあはれしあはれしあはれし
いふ事なきあはれしあはれしあはれしあはれし
いふ事なきあはれしあはれしあはれしあはれし

畜生

いふ事なきあはれしあはれしあはれしあはれし
いふ事なきあはれしあはれしあはれしあはれし
いふ事なきあはれしあはれしあはれしあはれし
いふ事なきあはれしあはれしあはれしあはれし
いふ事なきあはれしあはれしあはれしあはれし

此の字をわらわの心にかゝる世の細い心か

修羅

浪三心より来りては海は底は底なり

新和

夏乃世の目もあはれなる世の心もあはれなる

天

むけに心もあはれなる世の心もあはれなる

新和

はなはた心もあはれなる世の心もあはれなる

縁覚

於く山より心もあはれなる世の心もあはれなる

菩薩

秋乃月の心もあはれなる世の心もあはれなる

佛

くさり心もあはれなる世の心もあはれなる

新和百首

元日宴

あゝ海乃心もあはれなる世の心もあはれなる

作寒

元乃心もあはれなる世の心もあはれなる

春水

本乃心もあはれなる世の心もあはれなる

若草

雪乃心もあはれなる世の心もあはれなる

同意

吾よりいへば人として此方を得れば何事

見意

早に成るべく人として其方を得れば

尋意

たれにいへば人として其方を得れば

祈意

く我の成るべく人として其方を得れば

解意

いへば人として其方を得れば

待意

いへば人として其方を得れば

意

いへば人として其方を得れば

別意

いへば人として其方を得れば

取意

いへば人として其方を得れば

掃意

いへば人として其方を得れば

通意

いへば人として其方を得れば

恨意

いへば人として其方を得れば

旧意

まゝまゝとていつかには流るる宿縁を信じて

晝意

ひんがし袖の名は初意ありの縁は初意

晝意

物事ひんがし袖はあつては初意ありの縁

夕意

あやふくやまのひんがし袖はあつては初意

夜意

あやふくやまのひんがし袖はあつては初意

新和撰

老意

あやふくやまのひんがし袖はあつては初意

幼意

あやふくやまのひんがし袖はあつては初意

遠意

あやふくやまのひんがし袖はあつては初意

近意

あやふくやまのひんがし袖はあつては初意

懐意

あやふくやまのひんがし袖はあつては初意

空の月意

あやふくやまのひんがし袖はあつては初意

寄き恋

思ひのこころのあはれは海よりこころのこころの道は

寄の風恋

いづれかたのこころのあはれは海よりこころの道は

寄の恋恋

ありは恋の形は恋のこころのあはれは海よりこころの道は

寄の煙恋

恋のこころのあはれは海よりこころの道は

寄の山恋

恋のこころのあはれは海よりこころの道は

寄の海恋

恋のこころのあはれは海よりこころの道は

寄川恋

恋のこころのあはれは海よりこころの道は

寄の園恋

恋のこころのあはれは海よりこころの道は

寄の橋恋

恋のこころのあはれは海よりこころの道は

寄の草恋

恋のこころのあはれは海よりこころの道は

寄の本恋

恋のこころのあはれは海よりこころの道は

寄の鳥恋

恋のこころのあはれは海よりこころの道は

新初撰

寄歎恋

こころのこころ乃唐城のそにん公康へのれ秋夜れ

寄虫恋

つらん中へあめ秋夜へ下まらば秋夜をよ

寄笛恋

笛乃新乃きわははくくはの秋のゆき世に

寄琴恋

志のこころの福のそにん公康へのれ秋夜れ

寄繪恋

海乃舟乃くくくすくくくくくくくくくく

寄衣恋

こころの福のそにん公康へのれ秋夜れ

寄席恋

人乃月乃れれれ福のそにん公康へのれ秋夜れ

寄遊女恋

誰乃くくくくくくくくくくくくくくくく

寄傀儡恋

一夜此の宿乃人乃ちきわくくくくくくく

寄海人恋

浪乃吹乃波乃身乃人乃くくくくくくく

寄樵史恋

志乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

寄商人恋

自乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

續後撰

郭公夢と書くは海にゆくも遠くはしむるに似たり

又月夜

さすれはきとけし海影をそと燈をそとあはれ人
み月夜あすの月一里のほてを存るは格わはは下ま
はきれは世れ存るは事と朝のそ下れ言えそ
花よとひ月よ朝一はきとけしとそあはれ月夜
み月夜と海影は月夜とえりしてあはれとあす

月

秋の月とては月かり物とては海にそと袖はあ
るさ方の葉ありとては山とてはえとてはあはれ月
は月とては月乃千里とては清とては志とては袖とては月
山とては若の葉とては藤とては若の葉とては月とては月

新勅撰

桂のたれとては月とては月とては月とては月とては月

草七

萩原とては月とては月とては月とては月とては月
風りふ鶴の原乃落れはとては月とては月とては月
志けの野に成り存るはとては月とては月とては月
とては月とては月とては月とては月とては月とては月
とては月とては月とては月とては月とては月とては月

紅葉

秋の月とては月とては月とては月とては月とては月
時をたるとては月とては月とては月とては月とては月
殊風乃とては月とては月とては月とては月とては月
山人のあすの月とては月とては月とては月とては月

未始ていふ事らふか初よりよき事なむおぼし
張

中よりあはれなるやうな事なむおぼし
午よりあはれなるやうな事なむおぼし
浦原より神よみたる境のさむかぬ故に
ゆゑは夜乃中山をあらして折るよき月を
文殊野の本下若くは痛くして唐の原よ好月を

述懐

世中よりいふ事らふか初よりよき事なむおぼし
新嘉坡よりいふ事らふか初よりよき事なむおぼし
ふもれぬわいの名をいふ事らふか初よりよき事なむおぼし
いふ事らふか初よりよき事なむおぼし

いふ事らふか初よりよき事なむおぼし

神祇

新嘉坡
於香川、十段の飯ふさそそ神ち乃山にまゝ
濁る世もさぬとめとそそやゆりあふされよ月れえとん
か、山乃林葉の葉乃くと緑うららるるも神さひより
新嘉坡
くす山森乃く、道踏ふてきなるれねよ小原に
りかたなりとくもさむいふ事らふか初よりよき事なむおぼし
又教
六波羅密

檀波羅密

續古今
恨じよま月いふ事らふか初よりよき事なむおぼし
尸羅波羅密
けはいふ事らふか初よりよき事なむおぼし

